

令和4年  
8月12日発信

# 三田稲作情報



左記のQRコードを読み込んでいただくとHPでもご覧頂けます。(スマートフォンのみ)

JA 兵庫六甲三田営農総合センター  
お問い合わせ先 ; 079-563-4192

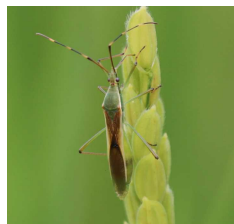
コシヒカリは傾穂～乳熟期です。生育ステージに合わせた水管理を徹底しましょう。今年もカメムシがほ場で数多く発生しており、出穂後のカメムシ防除を行ってください。

8月4日に本年度第4回目の水稻病害虫発生予察調査を実施しました。

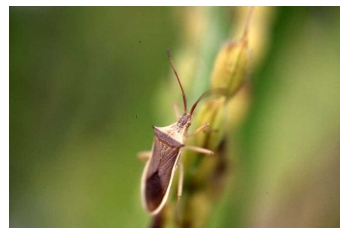
## 1. 生育状況について

コシヒカリの生育は平年並で田植え日が早いところでは傾穂～乳熟期を向えています。山田錦は、2回目の穂肥散布時期が近づいています(出穂10日前頃)。

品種	地区	田植日	令和4年		令和3年	
			草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)
山田錦	三輪	6月9日	96.1	25.7	85.0	20.1
	広野	6月4日	93.6	20.5	74.7	23.7
	本庄	6月3日	101.4	22.7	72.1	14.9



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

## 2. 病害虫発生状況について(カメムシ類に注意)


害虫: 無人ヘリ防除を実施した圃場では、ウンカ類の発生は若干見られる程度で、今すぐ防除の必要はありません。

カメムシ類は今後も多発が予想されますので、すでに防除されている箇所でも発生状況を注視し、目につくようであれば臨機防除をお願いします。

薬剤名	適用病害虫	10aあたり 使用液量	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数
スタークル粒剤	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ	3kg	収穫7日前まで	散布(ひたひた水から3cm程度の水深で散布)	3回以内
スタークル豆つぶ	カメムシ類	250g	収穫7日前まで	散布(たん水から3~5cm程度の水深で散布)	3回以内
	(ウンカ類、ツマグロヨコバイ)	(250~500g)			

病害: いもち病の病斑が、今回も散見されました。ほとんど停止型でしたが、胞子が残っているため今後湿度の高い日が続くと病害が増える可能性もありますので、今後も注意が必要です。特に、出穂前のいもち病防除をしていない圃場はよく観察し、病斑が見られる場合は薬剤散布しましょう。市内で多く発生している地域は、山際の日照時間が少なく朝露の乾きにくい圃場や川沿いの湿った条件となりやすい圃場なので注意してください。

薬剤名	希釈倍率	10aあたり 使用量	適用病害虫	散布時期	使用方法	本剤の使用回数
ブラシンフロアブル	1000倍	60~150L	いもち病、ごま葉枯病、穂枯れ、ごま葉枯病菌、褐条病、変色米、稲こうじ病、内穎褐変病、もみ枯細菌病、墨黒穂病	収穫7日前まで	散布	2回以内
トライフロアブル	1000倍	60~150L	稲こうじ病 いもち病	収穫14日前まで	散布	2回以内

令和4年 7月20日発信	<b>三田稲作情報</b>	 <p>左記のQRコードを読み込んでいただくとHPでもご覧頂けます。(スマートフォンのみ)</p>
<b>【発行・編集】</b> JA兵庫六甲三田営農総合センター お問い合わせ先：079-563-4192		

## ～ 水稲病害虫発生予察情報 ～

7月14日に、生育調査及び病害虫発生予察調査を実施しました。

### ＜生育調査結果と直近の管理＞

コシヒカリの生育は、平年と大きくは変わらず推移しております。すでに幼穂形成期に入っており水が必要ですので、間断灌水で管理を行ってください。

山田錦の生育についても、草丈はやや短く、茎数は平年より多いです。中干しの時期が近づいており、茎数が16～17本/株確保できていれば、天候を見て中干しを開始します。

品種	地区	田植日	令和4年		令和3年	
			草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)
コシヒカリ	本庄	5月28日	78.3	29.1	80.0	25.4
	高平	5月15日	89.0	25.2	85.9	31.0
どんとこい	広野	6月8日	74.0	27.2	82.6	28.9

品種	地区	田植日	令和4年		令和3年	
			草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)
ヒノヒカリ	三田	5月15日	78.3	28.5	73.2	17.1
山田錦	三輪	6月9日	60.1	28.3	73.8	14.7
	広野	6月4日	68.6	24.4	74.7	23.7
	本庄	6月3日	73.5	27.0	72.1	14.9

(各地区1圃場調査・20株調査1ほ場あたり)

### ＜病害虫発生状況＞

**病害:** いもち病の発生を市内多くの地点で確認しております。ここ数日の低日照と降雨により本病の発生が助長され、さらに天候不良が続くと見込まれますので今後注意しましょう。その他目立った病害は見つかりませんでした。

**害虫:** 夏ウンカ類等の発生は若干見られる程度で、被害を及ぼす程ではありませんでしたが、イネカメムシの発生が見られました。出穂時に被害を受けると不稔となりますので、注意が必要です。

### 【いもち病】

いもち病対策に箱施用剤を使用しても田植え後40～50日経過し、病斑を確認した場合は雨が続き気象条件時にすぐに防除する必要があります。



↑ 葉いもちの病斑写真

薬剤名	適用病害虫	10aあたり 使用量	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数
コラトップジャンボP	いもち病	小包装(パック) 10～13個 (500～650g)	葉いもちに対しては 初発20日前～初発時、穂いもちに対しては 出穂30日前～5日前まで	散布(たん水から3～5cm程度の水深で散布)	3回以内
トライフロアブル	稲こうじ病、いもち病、穂枯れ (ごま葉枯病菌)	60～150L/10a	収穫14日前まで	1,000倍に希釈し散布	2回以内
		25L/10a		250倍に希釈し散布	
		0.8L/10a		8倍に希釈し無人航空機による散布	

※詳しい登録内容についてはラベルをご確認ください。

### 【出穂前後の水管理】

根の活力を維持するため間断かん水を行ってください。

出穂前1週間～出穂後1週間は稲が特に水を必要とする期間なので、たん水管理(田に水を溜めた状態を保つ)を心がけてください。

### 【カメムシ類】

出穂の2週間前までには畦畔などの草刈を終えるようにしてください。併せて水田内のヒエ・ホタルイの除草も行ってください。一般の斑点米の原因となるカメムシについては、下記の薬剤は出穂してから5日前後の防除が有効です。

薬剤名	適用病害虫	10aあたり 使用量	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数
スタークル粒剤	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネドロオイムシ、イネミスズコムシ	3kg	収穫7日前まで	散布(ひたひた水から3cm程度の水深で散布)	3回以内
スタークル豆つぶ	カメムシ類	250g	収穫7日前まで	散布(たん水から3～5cm程度の水深で散布)	3回以内
	(ウンカ類、ツマグロヨコバイ)	(250～500g)			

※不稔もみの原因となるイネカメムシの防除適期は出穂7～10日前と考えられます(特に藍・本庄・広野地区は要注意です)。

※詳しい登録内容についてはラベルをご確認ください。